“街道テクテク・日光道中” No.8（2020-11-15）

・参加者：芦田拓也、碇貴臣、太田哲夫、後藤幸子、佐熊範和、高野泰三郎、政芳一、黛政男、木村芳一
・行程：古河本陣跡→間々田駅入口 9.4km（日本橋から 75.0km）
古河駅→本陣跡（古河宿）→日光街道古河宿道標→神宮寺（木像十一面観音坐像）→徳星寺（古河城の鬼門除け）→正麟寺（鷹見泉石墓）→本成寺→塩滑地蔵菩薩→國境（下総國（茨木県）と下野國（栃木県）の堺）→野木神社→熊倉本陣跡（野木宿）→愛宕神社→観音堂→法音寺（芭蕉句碑）→正八幡宮→乙女の一里塚→若宮八幡宮（銅製大日如来坐像）→乙女八幡宮→乙女不動原瓦窯跡→間々田駅入口（間々田宿）→間々田駅、解散

・快晴であり、多少暑くもありましたが、なんとか暗くなる前に間々田駅に着きました。今回の野木宿、間々田宿は西側の思川の水運で栄えたところです。
・野木神社は仁徳天皇時代に創建された古社です。境内に推定樹齢 650 年以上のケヤキと 1200 年のイチョウの見事な大木がありました。また野生のフクロウの繁殖場所ということです。
・間々田駅近くに発掘、復元された“乙女不動原瓦窯跡”がありましたが、そこは奈良時代に寺の瓦を供給したところで、他に見られない珍しい国指定史跡です。
・地名の乙女の、オトは崖・傾斜地、メ（目）は二つの物の接点・境目の意であり、乙女は思川に臨む崖縁（台地端部）に由来すると言われています。

（木村芳一）